

平安京右京五条三坊六町跡

2011 年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京右京五条三坊六町跡

2011 年

財団法人 京都市埋藏文化財研究所

序 文

歴史都市京都は、平安京建設以来の永くそして由緒ある歴史を蓄積しており、さらに平安京以前に遡るはるかなむかしの、貴重な文化財も今なお多く地下に埋もれています。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、昭和 51 年（1976）設立以来、これまでに市内に点在する数多くの遺跡の発掘調査を実施し、地中に埋もれていた京都の過去の姿を多く明らかにしてきました。

これらの調査成果は現地説明会、京都市考古資料館での展示、写真展あるいはホームページを通じて広く公開し、市民の皆様に京都の歴史に対し、関心を深めていただけるよう努めております。

このたび、工場新設工事に伴う平安京跡の発掘調査成果をここに報告いたします。本報告書の内容につきまして御意見、御批評をお聞かせいただけますようお願い申し上げます。

末尾ではありますが、当遺跡の調査に際して御協力ならびに御支援たまわりました関係各位に厚く感謝し、御礼申し上げます。

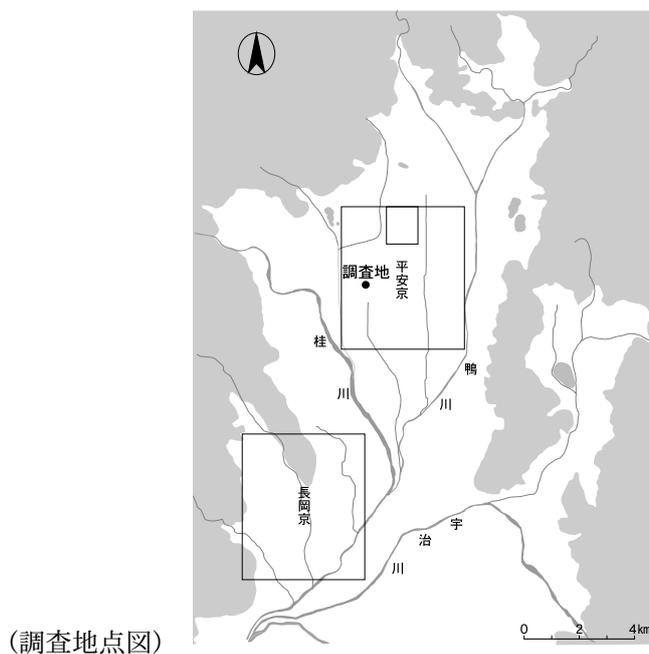
平成 23 年 6 月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 川 上 貢

例 言

- 1 遺 跡 名 平安京右京五条三坊六町跡
- 2 調査所在地 京都市右京区西院南井御料町 6-1、6-2 番地
- 3 委 託 者 由利ロール株式会社 代表取締役社長 由利哲男
- 4 調査期間 2011年3月7日～2011年4月1日
- 5 調査面積 306 m²
- 6 調査担当者 津々池惣一
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「山ノ内」・「西京極」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系VI（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。ただし、建物・柵については別に番号を付した。
- 12 遺物番号 通し番号を付し、写真番号も同一とした。
- 13 本書作成 津々池惣一
- 14 備 考 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、資料業務職員および調査業務職員があたった。



目 次

1. 調査経過	1
(1) 調査の経過	1
(2) 位置と周辺の調査	3
2. 遺 構	5
(1) 基本層序	5
(2) 遺構の概要	5
(3) 遺構	5
3. 遺 物	15
(1) 遺物の概要	15
(2) 土器類	15
(3) 木製品	17
4. ま と め	18

図 版 目 次

図版 1	遺構	1	調査区全景（北から）
		2	建物 1（西から）
図版 2	遺構	1	建物 2（西から）
		2	建物 3（東から）
図版 3	遺構	1	高辻小路北側溝 溝 152（東から）
		2	地鎮跡 土坑 151（北から）
		3	門跡 柱穴 170・179（東から）
		4	門跡 柱穴 179 柱根検出状況（南から）
		5	柵 柱穴 148 柱根検出状況（西から）
図版 4	遺物		土器・柱根

挿 図 目 次

図 1	調査位置図 (1 : 2,500)	1
図 2	調査区配置図 (1 : 1,000)	2
図 3	調査前全景 (南西から)	2
図 4	調査風景 (北西から)	2
図 5	周辺既往調査位置図 (1 : 5,000)	3
図 6	東壁断面図 (1 : 50)	6
図 7	遺構平面図 (1 : 150)	7
図 8	建物 1 実測図 (1 : 100)	8
図 9	建物 2 実測図 (1 : 100)	9
図 10	建物 3 実測図 (1 : 100)	10
図 11	柵実測図 (1 : 100)	11
図 12	門跡実測図 (1 : 40)	11
図 13	地鎮跡実測図 (1 : 20)	12
図 14	高辻小路北側溝実測図 (平面 1 : 100、断面 1 : 40)	12
図 15	溝 153・198 実測図 (平面 1 : 80、断面 1 : 40)	13
図 16	土坑 200・201 実測図 (1 : 40)	14
図 17	土器実測図 (1 : 4)	16
図 18	柱根実測図 (1 : 4)	16

表 目 次

表 1	周辺既往調査一覧表	4
表 2	遺構概要表	5
表 3	遺物概要表	15

平安京右京五条三坊六町跡

1. 調査経過

(1) 調査の経過

今回の調査は、京都市右京区西院南井御料町 6-1、6-2 番地に所在する由利ロール株式会社工場敷地内における工場新設工事に伴う発掘調査である。調査地点は、高辻通と佐井西通との交差点の西側に位置する。当該地は、調査前には工場の駐車場として利用されていた箇所である。今回の発掘調査に先立って、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「市文化財保護課」という。）の試掘調査が実施された。その結果、調査対象地中央部で、建物などに想定できる柱穴群が検出されたことにより、財団法人京都市埋蔵文化財研究所が委託を受け、市文化財保護課の指導の下に発掘調査を実施することになった。

調査地点は、平安京右京五条三坊六町跡の南西隅に該当し、調査対象地南端では、高辻小路が東西方向に延長することが想定できる地点である。

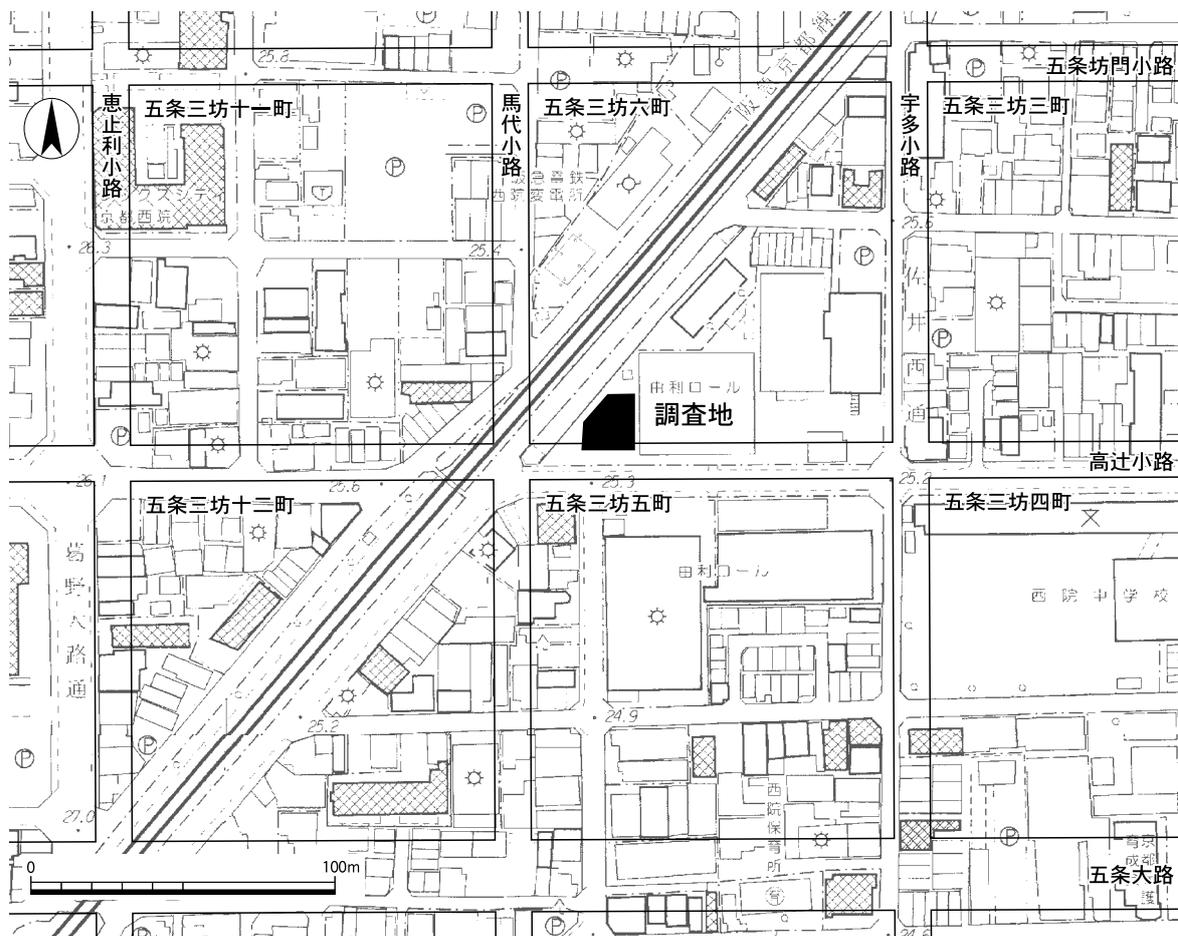


図1 調査位置図 (1 : 2,500)

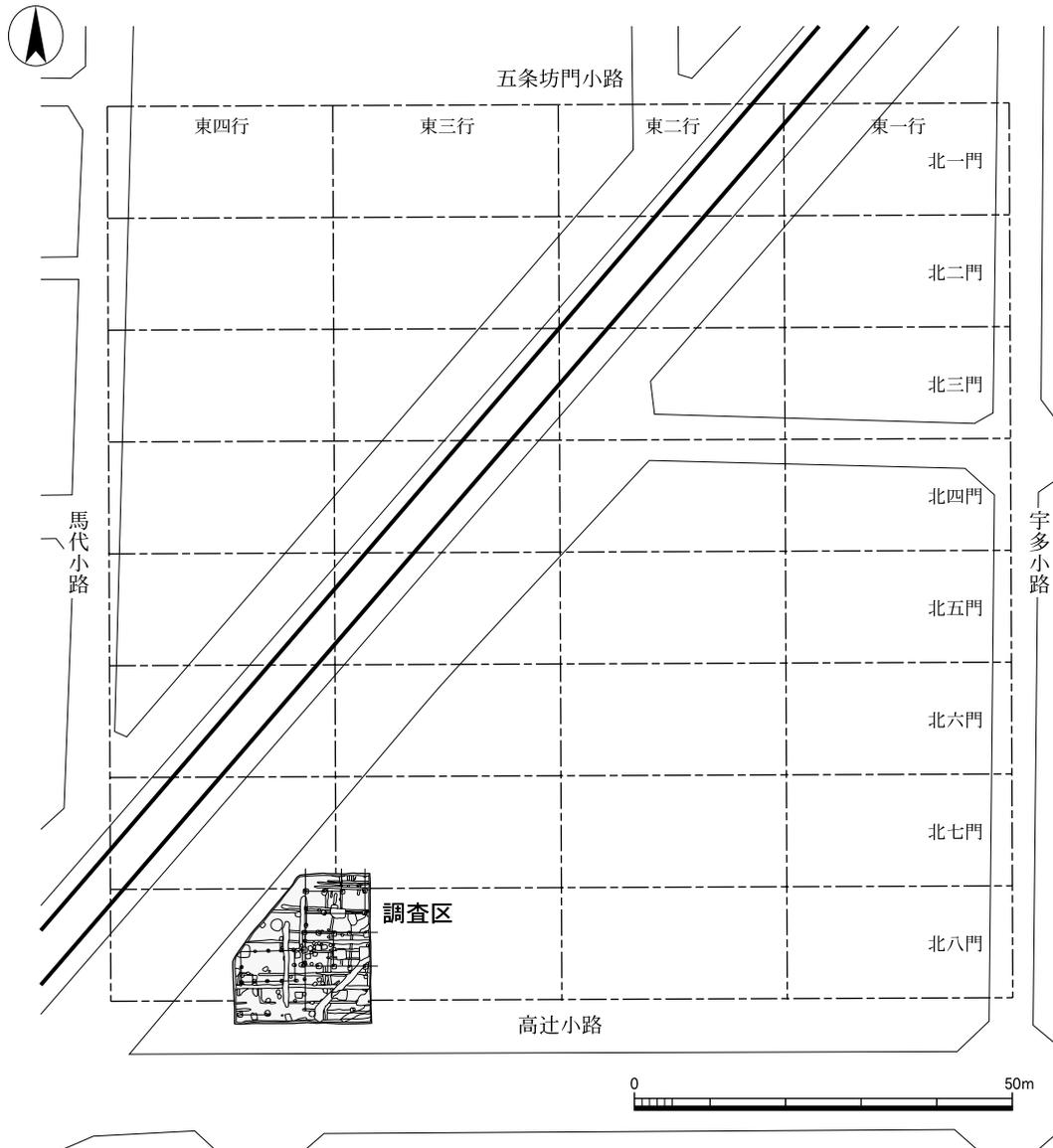


図2 調査区配置図 (1 : 1,000)



図3 調査前全景 (南西から)



図4 調査風景 (北西から)

発掘調査は、2011年3月7日から開始し、まず、重機掘削により、近・現代の盛土や耕作土層などを掘り下げた。発掘調査面積は、約306㎡である。重機掘削後は、人力による作業に切り替え、調査を進めた。遺構検出作業の結果、平安時代前期の掘立柱建物3棟・門・地鎮遺構・柵および平安時代以前と考えられる溝や土坑などを検出することができた。これらの遺構について全景写真撮影を行い、その後、平面図・断面図実測などの記録作成作業ならびに補足調査を実施した。4月1日に全ての現地調査を終了した。

調査期間中には、市文化財保護課による臨検を受けた。

なお、重機掘削中に出土したアスファルトガラやコンクリートガラは、産業廃棄物として処分した。

(2) 位置と周辺の調査

調査地点は、平安京の右京五条三坊六町跡の南西部に位置し、調査区の南端部は高辻小路が東西方向に延長する。四行八門制による1町内の区分では東三・四行、北七・八門の4戸主に相当する。鎌倉時代の文献史料である『拾芥抄』所収の「西京図」では、当該地の利用について記されていないが、五条三坊域の一～三・七・十・十三～十六町は小泉荘に含まれていたとされる。

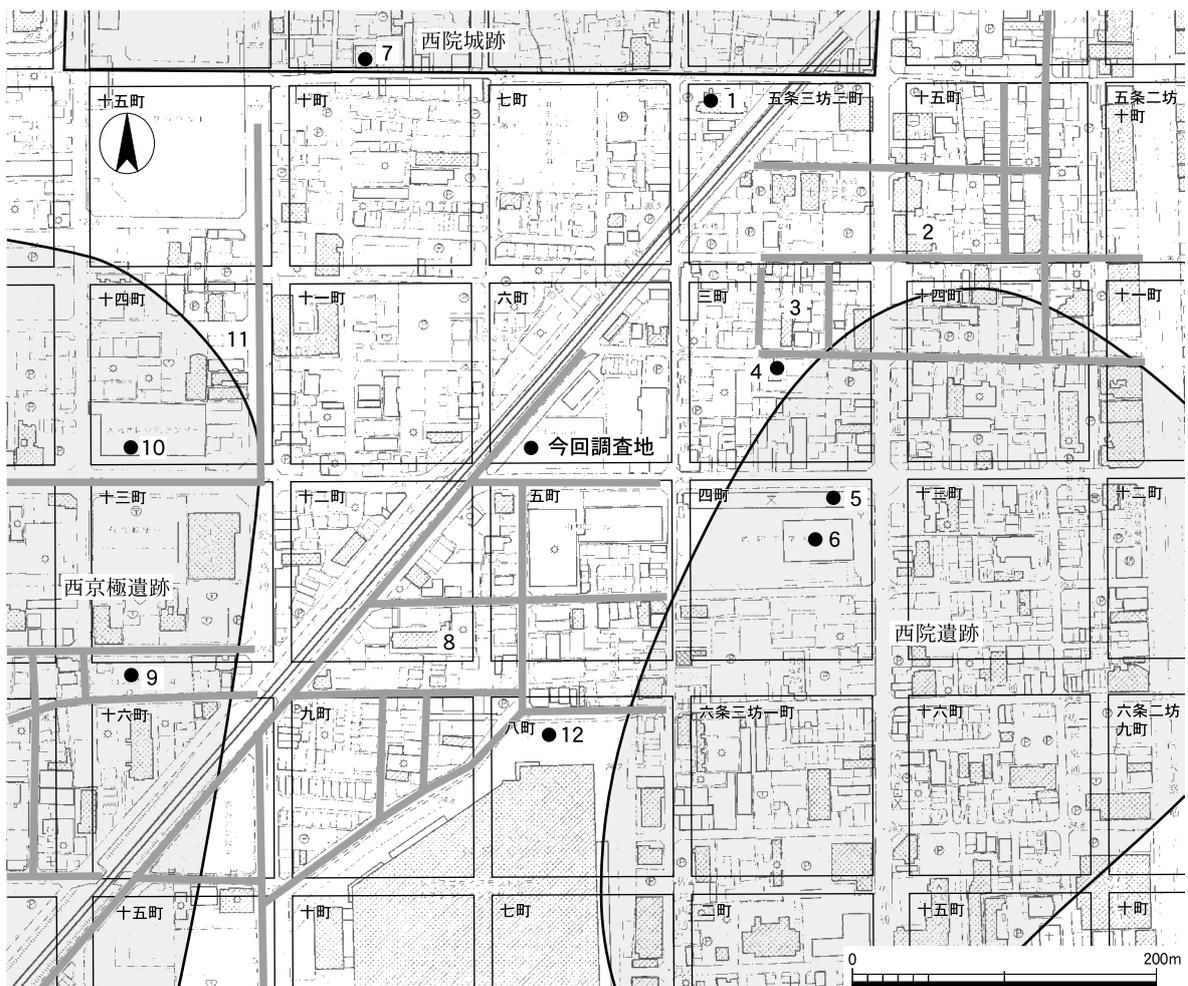


図5 周辺既往調査位置図 (1:5,000)

表1 周辺既往調査一覧表

番号	遺跡名	所在地	方法	年度	概要	文献
1	五条三坊二町	右京区西院松井町 32, 33, 34	発掘	1988	平安時代前期の東西溝、柱穴、土坑。江戸時代の溝。	昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要
2	五条三坊二町他	右京区西院高辻下る麓町	広域立会	1982	平安時代前期～中期の土坑・溝。	昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要
3	五条三坊三町	右京区西院矢掛町～寿町	広域立会	1986	平安時代前期の遺物包含層。	—
4	五条三坊三町	右京区西院矢掛町 16, 17	発掘	2004	平安時代前期～中期の掘立柱建物8棟、埋納遺構3基、溝3条、柵。	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-2
5	五条三坊四町	右京区西院矢掛町 5	発掘	1981	平安時代中期の建物跡2棟以上、土坑、溝。鎌倉時代の溝3条、土坑2基。室町時代の暗渠、土坑。	昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要（発掘調査編）
6	五条三坊四町	同上	発掘	1987	弥生時代の土坑群。平安時代前期～中期の掘立柱建物、池状遺構、溝、土坑。平安時代後期～室町時代の東西・南北溝群。	昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要
7	五条三坊九町	右京区西院坤町 100	立会	1992	時期不明の南北方向の溝東肩。	京都市内遺跡立会調査概報 平成4年度
8	五条三坊十二町他	右京区西院大田町・追分町他	広域立会	1978	現代盛土下には暗灰色泥土(-2.0m)、灰色砂礫(-2.0m以下)が続く。	西部幹線公共下水道工事に伴う遺跡調査概報 1978年度
9	五条三坊十三町	右京区西院清水町	試掘	1985	遺構なし。地表下3mまで攪乱。	昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要
10	五条三坊十四町	右京区西院日照町 112	発掘	2006	弥生時代の方形周溝墓、溝、土坑墓。古墳時代の掘立柱建物、溝、土坑墓。平安時代前期の柵、柱穴、井戸、溝、土坑。鎌倉時代～室町時代の田畑、畔、鋤溝。	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-7
11	五条三坊十四町他	右京区葛野大路五条～高辻通他	広域立会	1977	黒灰色砂泥層からは陶磁器、瓦質土器、土師器小片が出土。	西部幹線公共下水道工事に伴う遺跡調査概報 1977年度
12	六条三坊八町	右京区西院追分町 25-2	発掘	1990	古墳時代後期の土坑。平安時代前期～中期の建物5棟、柵3条、土坑、溝、柱穴。	平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要

近隣の遺跡としては、調査地点の東方には弥生時代の遺跡として周知されている西院遺跡がある。また、西方には弥生時代から奈良時代にかけての集落遺跡である西京極遺跡が展開する。

既往の調査としては、五条三坊十四町跡内南西部での調査（10）では、弥生時代中期から後期の方形周溝墓6基、平安時代の掘立柱建物などが検出されている。また、六条三坊八町跡北西寄りの調査（12）では、平安時代前期から中期にかけての3時期の建物群が検出されている。

2. 遺 構

(1) 基本層序

調査区の基本層序については、表土下 0.6 m 前後までは現代盛土層が堆積する。現代盛土層下には、近代から現代耕作土層が厚さ 0.1 m 前後、近世から中世耕作土層が厚さ 0.05 m 前後堆積している。耕作土層下は、低位段丘層もしくは沖積層下部層相当の扇状地堆積（以下、地山）となり、北西部では砂礫層が、その他の範囲には、にぶい黄褐色粘質土を主体とする土層が堆積する。遺構は、すべて地山上面で検出した。

(2) 遺構の概要

検出した遺構総数は 201 基で、大半は平安時代のものである。

主な検出遺構は、掘立柱建物 3 棟と門跡、地鎮跡、高辻小路北側溝などがある。以下、それらの遺構についての概要を記す。

(3) 遺構

1) 平安時代の遺構

建物 1（図 8、図版 1-2）調査区中央から東で検出した東西棟の掘立柱建物で、柱穴の配置などから、東へさらに広がると考えられる。調査区内では梁間 2 間、桁行 4 間分を検出した。柱間は、梁間・桁行とも約 2.1 m ある。柱穴の平面形は概ね方形を示し、検出面での規模は、一辺 0.6 m 前後、深さ 0.4 m 前後ある。柱根は遺存していないが、柱相当箇所が腐植土化した痕跡を明瞭に残すものもあり、柱痕跡の径は 0.2 m 前後ある。西端柱列から東へ 2 間目には、建物を東西方向に間仕切りしたと考えられる柱穴 132 がある。主軸は、座標方向に一致する。柱穴からは須恵器杯 A が出土した。

建物 2（図 9、図版 2-1）建物 1 の北側で検出した南北棟と考えられる掘立柱建物である。柱穴の配置などから、北へさらに広がると考えられる。調査区内では身舎部分の梁間 2 間、桁行 1 間分の柱穴列ならびに身舎の南側・東側では庇に想定できる柱穴列を検出している。梁間の柱間

表 2 遺構概要表

時 代	遺 構	備 考
平安時代以前	溝153・198、土坑200・201	
平安時代	建物 1～3、柵、高辻小路北側溝（溝152）、地鎮跡（土坑151）、門跡（柱穴170・179）、溝101・131	
江戸時代	耕作関連溝	

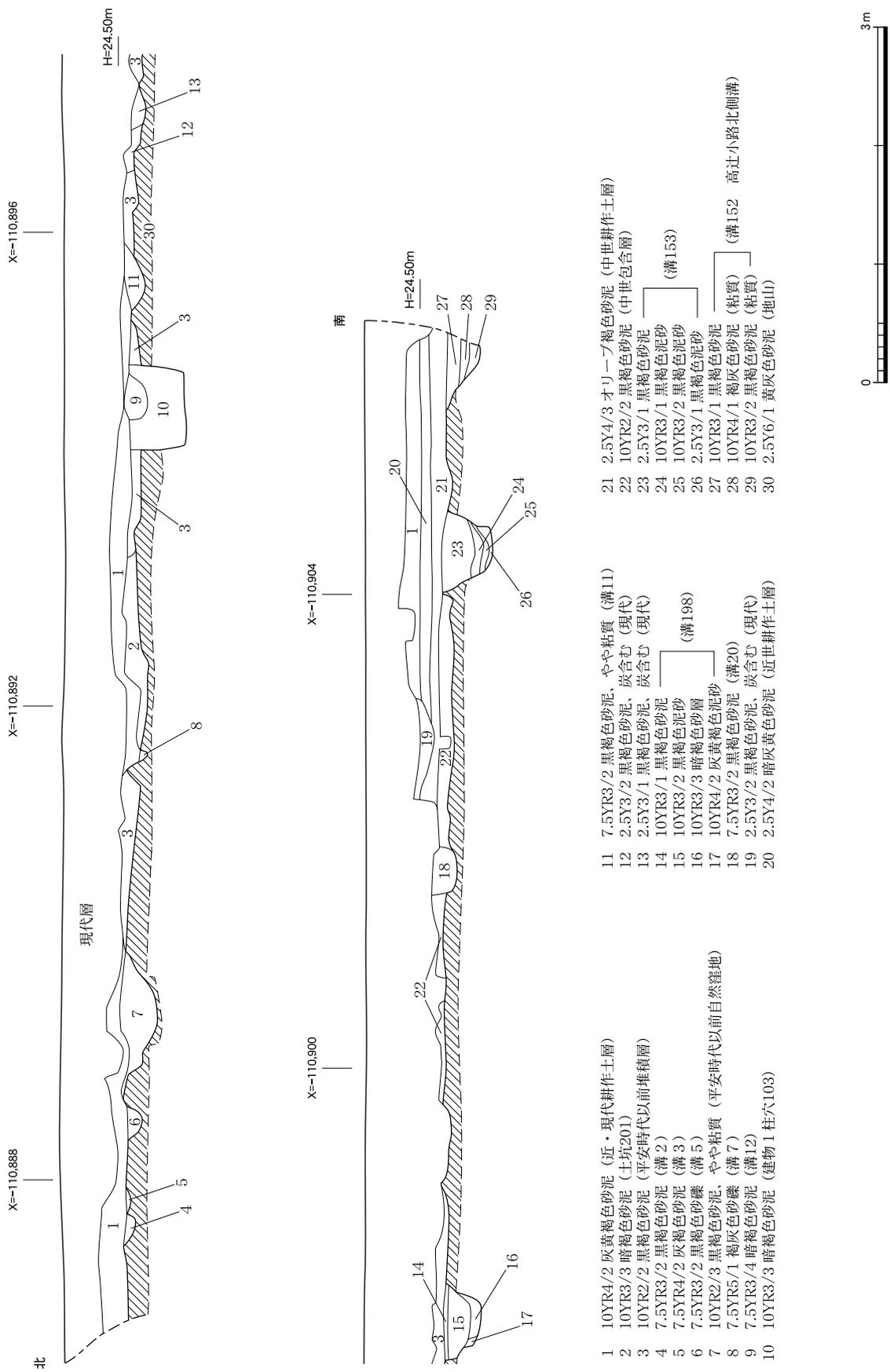


図6 東壁断面図 (1 : 50)

- | | | | |
|----|---------------------------------|----|---------------------------|
| 1 | 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 (近・現代耕作土層) | 21 | 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂泥 (中世耕作土層) |
| 2 | 10YR3/3 暗褐色砂泥 (土坑201) | 22 | 10YR2/2 黒褐色砂泥 (中世包含層) |
| 3 | 10YR2/2 黒褐色砂泥 (平安時代以前堆積層) | 23 | 2.5Y3/1 黒褐色砂泥 |
| 4 | 7.5YR3/2 黒褐色砂泥 (溝2) | 24 | 10YR3/1 黒褐色泥砂 |
| 5 | 7.5YR4/2 灰褐色砂泥 (溝3) | 25 | 10YR3/2 黒褐色泥砂 |
| 6 | 7.5YR3/2 黒褐色砂泥 (溝5) | 26 | 2.5Y3/1 黒褐色泥砂 |
| 7 | 10YR2/3 黒褐色砂泥、やや粘質 (平安時代以前自然窪地) | 27 | 10YR3/1 黒褐色砂泥 |
| 8 | 7.5YR5/1 褐灰色砂泥 (溝7) | 28 | 10YR4/1 褐灰色砂泥 (粘質) |
| 9 | 7.5YR3/4 暗褐色砂泥 (溝12) | 29 | 10YR3/2 黒褐色砂泥 (粘質) |
| 10 | 10YR3/3 暗褐色砂泥 (建物1 柱穴103) | 30 | 2.5Y6/1 黄灰色砂泥 (地山) |
| 11 | 7.5YR3/2 黒褐色砂泥、やや粘質 (溝11) | | |
| 12 | 2.5Y3/2 黒褐色砂泥、炭含む (現代) | | |
| 13 | 2.5Y3/1 黒褐色砂泥、炭含む (現代) | | |
| 14 | 10YR3/1 黒褐色砂泥 | | |
| 15 | 10YR3/2 黒褐色泥砂 | | |
| 16 | 10YR3/3 暗褐色砂泥 (溝198) | | |
| 17 | 10YR4/2 灰黄褐色泥砂 | | |
| 18 | 7.5YR3/2 黒褐色砂泥 (溝20) | | |
| 19 | 2.5Y3/2 黒褐色砂泥、炭含む (現代) | | |
| 20 | 2.5Y4/2 暗灰黄色砂泥 (近世耕作土層) | | |

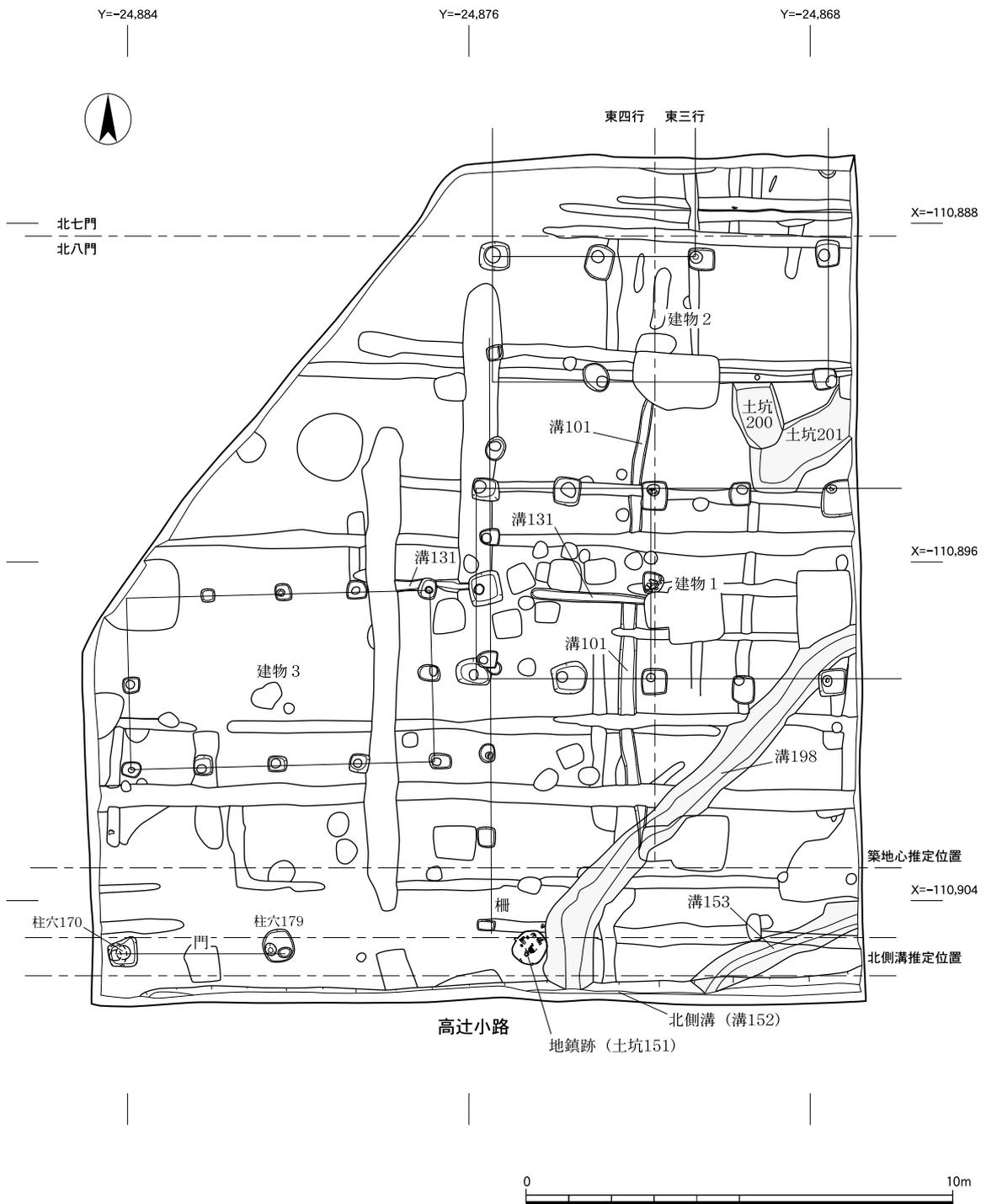
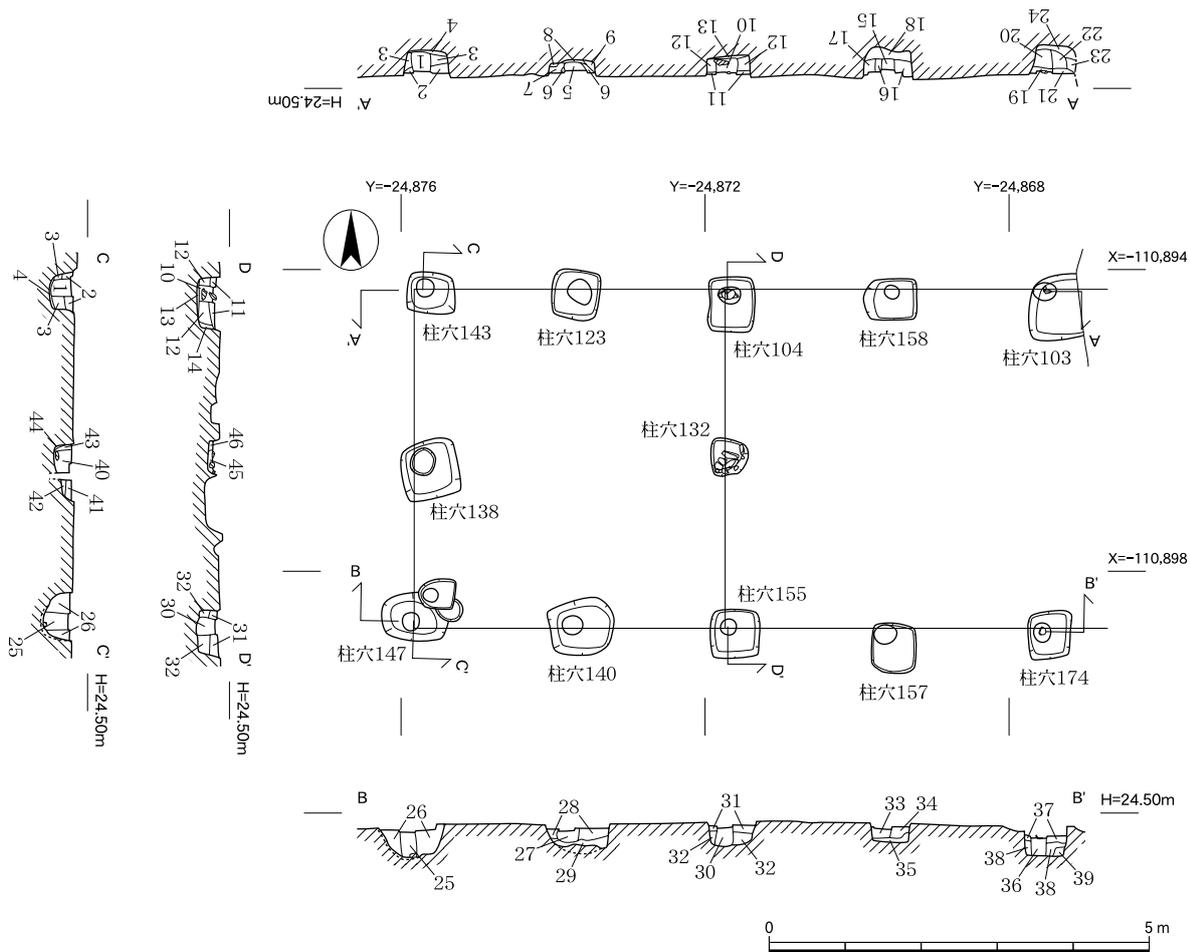


図7 遺構平面図 (1 : 150)

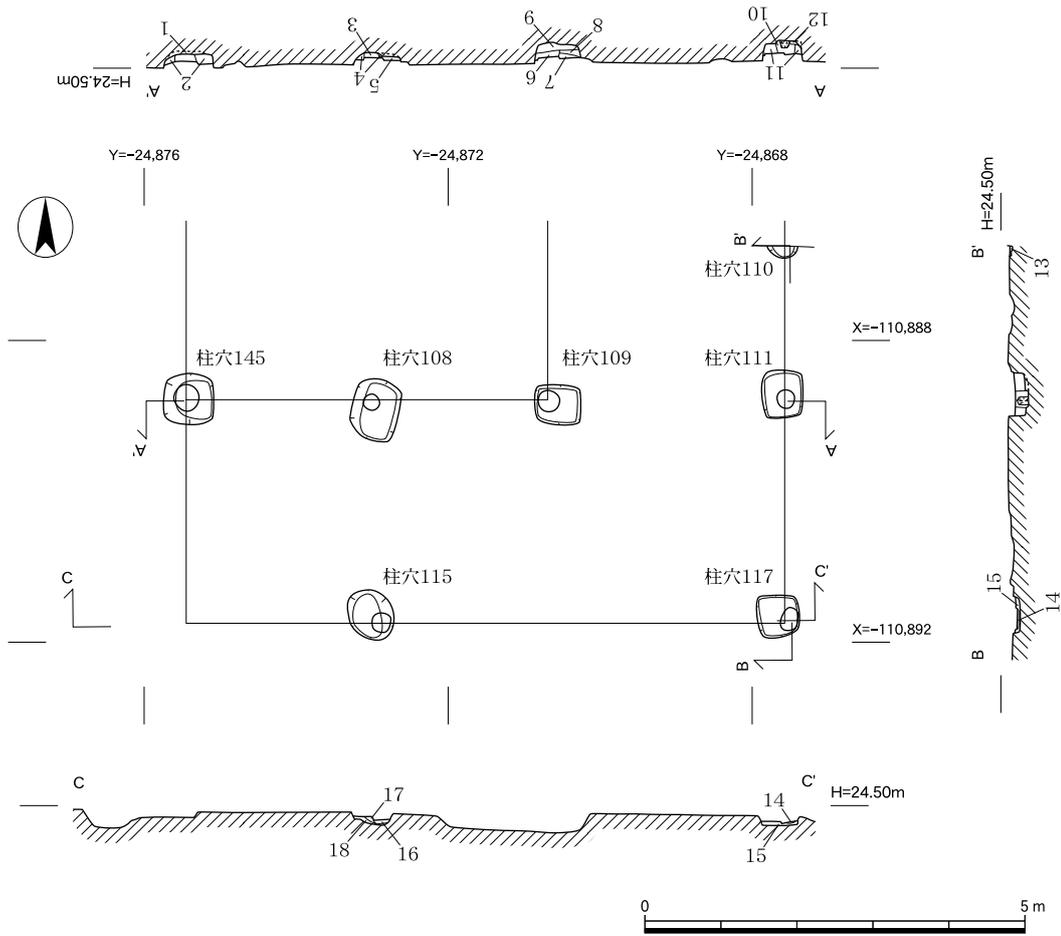


- | | | |
|---------------------------------|---|--------------------------|
| 1 10YR3/1 黒褐色砂泥、やや粘質、炭少量含む | 17 10YR2/2 黒褐色砂泥、10YR3/4 暗褐色砂泥混 | 30 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 |
| 2 5Y5/2 灰オリーブ色 | 18 10YR3/2 黒褐色砂泥、10YR4/2 灰黄褐色砂泥混（掘形下埋土） | 31 10YR4/4 褐色砂泥 |
| 3 10YR4/1 褐灰色砂泥 | 19 10YR3/4 暗褐色砂泥 | 32 10YR5/2 灰黄褐色砂泥 |
| 4 2.5Y3/2 黒褐色砂泥（掘形下埋土） | 20 10YR3/3 暗褐色砂泥 | 33 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 |
| 5 10YR3/1 黒褐色砂泥、2.5Y5/2 暗灰黄色砂泥混 | 21 10YR6/2 灰黄褐色砂泥 | 34 2.5Y3/2 黒褐色砂泥 |
| 6 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂泥 | 22 2.5Y5/2 暗灰黄色砂泥 | 35 10YR5/2 灰黄褐色砂泥（掘形下埋土） |
| 7 10YR2/1 黒色砂泥、やや粘質 | 23 10YR5/2 灰黄褐色砂泥 | 36 10YR3/1 黒褐色砂泥、粘質 |
| 8 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂泥 | 24 10YR4/4 褐色砂泥 | 37 10YR5/1 褐灰色砂泥、粘質 |
| 9 10YR3/1 黒褐色砂泥 | 25 10YR2/1 黒色砂泥 | 38 10YR4/1 褐灰色砂泥、粘質 |
| 10 10YR2/2 黒褐色砂泥 | 26 10YR2/2 黒褐色砂泥、10YR5/2 灰黄褐色砂泥混 | 39 10YR5/3 にぶい黄褐色砂泥、粘質 |
| 11 10YR5/2 灰黄褐色砂泥 | 27 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 | 40 10YR3/1 黒褐色砂泥、粘質 |
| 12 2.5Y5/2 暗灰黄色砂泥 | 28 10YR5/2 灰黄褐色砂泥 | 41 10YR6/1 褐灰色砂泥 |
| 13 10YR4/1 褐灰色砂泥（掘形下埋土） | 29 10YR3/3 暗褐色砂泥、10YR5/1 褐灰色砂泥混 | 42 10YR4/1 褐灰色砂泥、粘質 |
| 14 10YR6/1 褐灰色砂泥（掘形下埋土） | | 43 10YR3/2 黒褐色砂泥、粘質 |
| 15 7.5YR2/2 黒褐色砂泥 | | 44 10YR4/2 灰黄褐色砂泥、粘質 |
| 16 10YR2/3 黒褐色砂泥 | | 45 10YR3/1 黒褐色砂泥、粘質 |
| | | 46 10YR6/1 褐灰色砂泥 |

図8 建物1実測図（1：100）

は約 2.4 m、底の柱間は 2.7 m である。柱穴の平面形は方形を呈し、一辺 0.5 m 前後、深さは 0.2 m 前後ある。柱穴 111 には柱根が遺存していた。主軸は、座標方向に一致する。

建物 3（図 10、図版 2 - 2）調査区南西部で検出した東西棟の掘立柱建物である。調査区内では梁間 2 間、桁行 4 間分を検出したが、西妻側の中央柱穴が間仕切りを示す柱穴と仮定すれば、さらに西側へ広がる可能性がある。柱間は梁間 2.1 m、桁行 1.8 m である。柱穴の平面形は概ね方形を呈し、検出面での規模は、一辺 0.3 m 前後、深さ約 0.2 m あり、柱穴の規模は、建物 1・2 に比べると小規模である。柱穴の中には柱痕跡が遺存する柱穴があり、径約 0.1 m である。主軸方



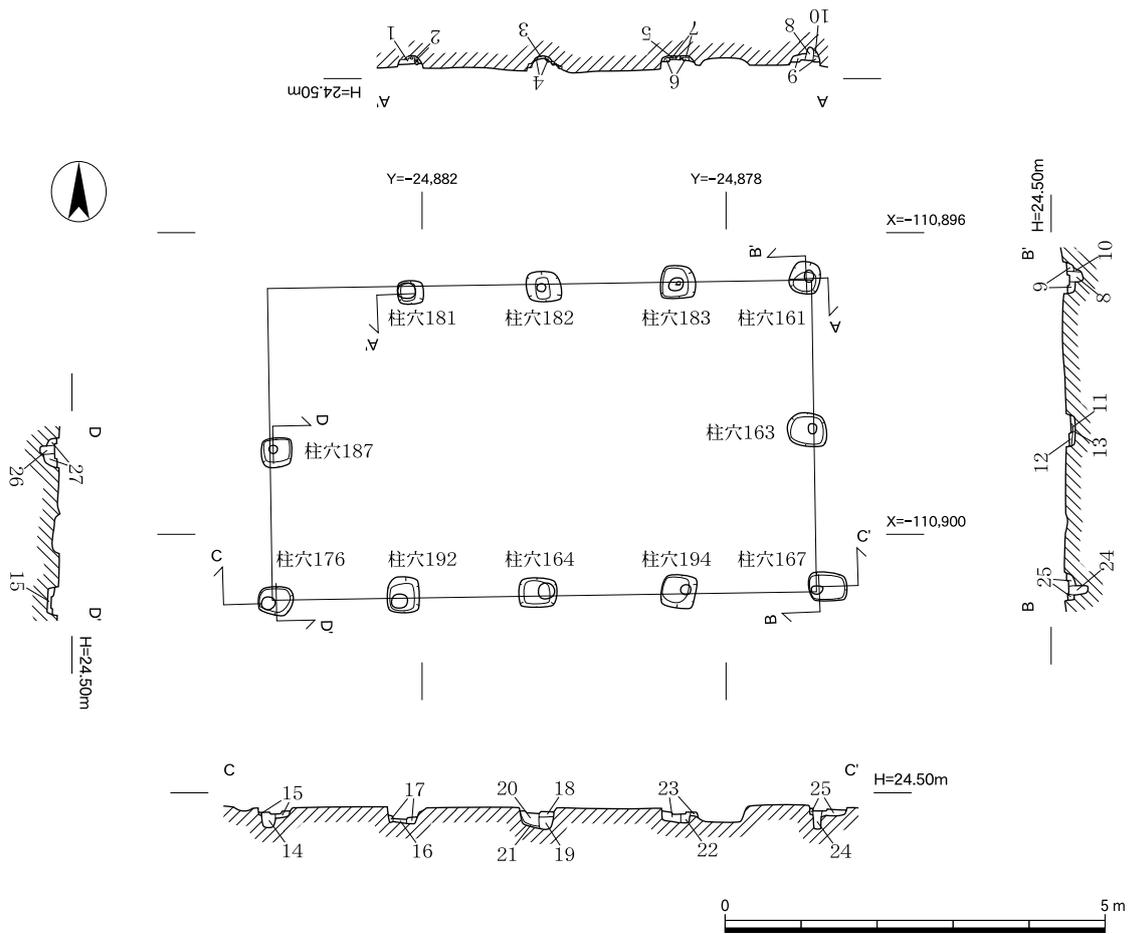
- | | |
|------------------------------------|-------------------|
| 1 10YR2/3 黒褐色砂泥、φ1~5cmの礫含む | 10 10YR2/2 黒褐色粘質土 |
| 2 10YR2/2 黒褐色砂泥、φ2~5cmの礫含む | 11 10YR2/1 黒色粘質土 |
| 3 7.5YR2/1 黒色砂泥 | 12 10YR4/1 褐灰色砂泥 |
| 4 7.5YR2/2 黒褐色砂泥、10YR5/4 にぶい黄褐色砂泥混 | 13 10YR2/3 黒褐色砂泥 |
| 5 7.5YR3/2 黒褐色砂泥 | 14 10YR3/1 黒褐色砂泥 |
| 6 10YR2/2 黒褐色砂泥、2.5Y5/2 暗灰黄色砂泥混 | 15 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 |
| 7 10YR2/2 黒褐色砂泥、粘質 | 16 10YR2/2 黒褐色砂泥 |
| 8 10YR6/1 褐灰色砂泥、粘質 | 17 10YR2/2 黒褐色砂泥 |
| 9 10YR2/1 黒色粘質土 | 18 10YR3/2 黒褐色砂泥 |

図9 建物2実測図(1:100)

向は、座標東に対し北へ約 2° 振れる。

柵(図11、図版3-5) 建物3の東約1.4mに位置する南北方向の柱列で、柱穴141・142・144・146・148・149・172を検出した。柵の南端は、ほぼ高辻小路北築地心想定線に位置する。柱穴の平面形はやや歪な方形を呈し、検出面での規模は、一辺0.2m前後、深さ約0.1mある。柱間は約2.0mあるが、中にはやや広いものもある。主軸方向は、座標北に対し東へ約 1° 振れる。

門跡(図12、図版3-3・3-4) 調査区南西隅部、高辻小路北側溝の北肩部から約1.0m北側で検出した柱穴170・柱穴179からなる柱穴列で、検出位置などから門に想定した。高辻小路北築地心想定線からは南へ約2.0mに位置する。柱穴170・柱穴179とも新旧の2時期あり、図12では旧期の柱穴を柱穴a、新期の柱穴を柱穴bとして掲載している。柱穴間は約3.8mある。柱穴の平面形はやや歪な方形を呈し、検出面での規模は、一辺約0.6m、深さ約0.1mある。柱穴179には柱根が遺存しており、径約0.2mある。また、各柱穴内の西寄りにはそれぞれ柱を建て



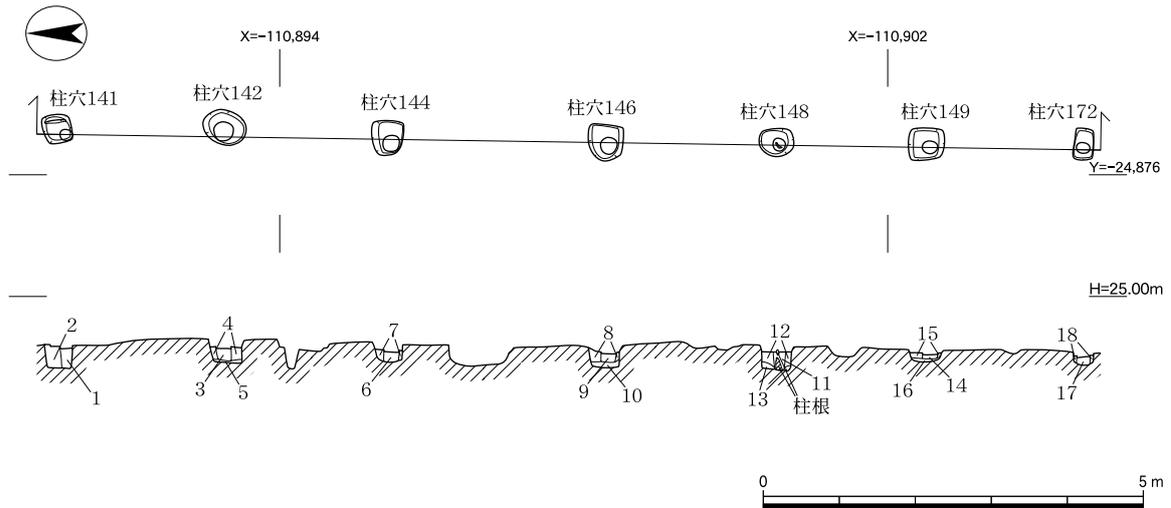
- | | | |
|--------------------|-----------------------|----------------------|
| 1 10YR3/1 黒褐色砂泥 | 10 10YR5/1 褐灰色砂泥 | 19 10YR2/1 黒色砂泥 |
| 2 10YR3/2 黒褐色砂泥 | 11 10YR3/1 黒褐色砂泥 | 20 10YR2/2 黒褐色砂泥、粘質 |
| 3 10YR3/1 黒褐色砂泥 | 12 10YR5/2 灰黄褐色砂泥 | 21 10YR5/2 灰黄褐色砂泥、粘質 |
| 4 10YR5/1 褐灰色砂礫 | 13 10YR5/3 にぶい黄褐色砂泥 | 22 10YR3/1 黒褐色砂泥 |
| 5 10YR2/2 黒褐色砂泥、粘質 | 14 10YR2/2 黒褐色砂泥、やや粘質 | 23 10YR2/3 黒褐色砂泥 |
| 6 10YR3/1 黒褐色砂泥 | 15 10YR2/2 黒褐色砂泥 | 24 10YR3/1 黒褐色砂泥 |
| 7 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 | 16 10YR2/2 黒褐色砂泥 | 25 10YR3/2 黒褐色砂泥 |
| 8 10YR2/2 黒褐色砂泥、粘質 | 17 10YR3/1 黒褐色砂泥 | 26 10YR2/1 黒色砂泥 |
| 9 10YR3/1 黒褐色砂泥 | 18 10YR3/1 黒褐色砂泥 | 27 10YR3/1 黒褐色砂泥 |

図 10 建物 3 実測図 (1 : 100)

替えたと考えられる柱痕跡があり、径約 0.2 m ある。主軸方向は、座標東に対し北へ約 1.5° 振れる。出土遺物はないが、建物 1・2 や地鎮跡との位置関係から平安時代初頭に設けられたと考えられる。

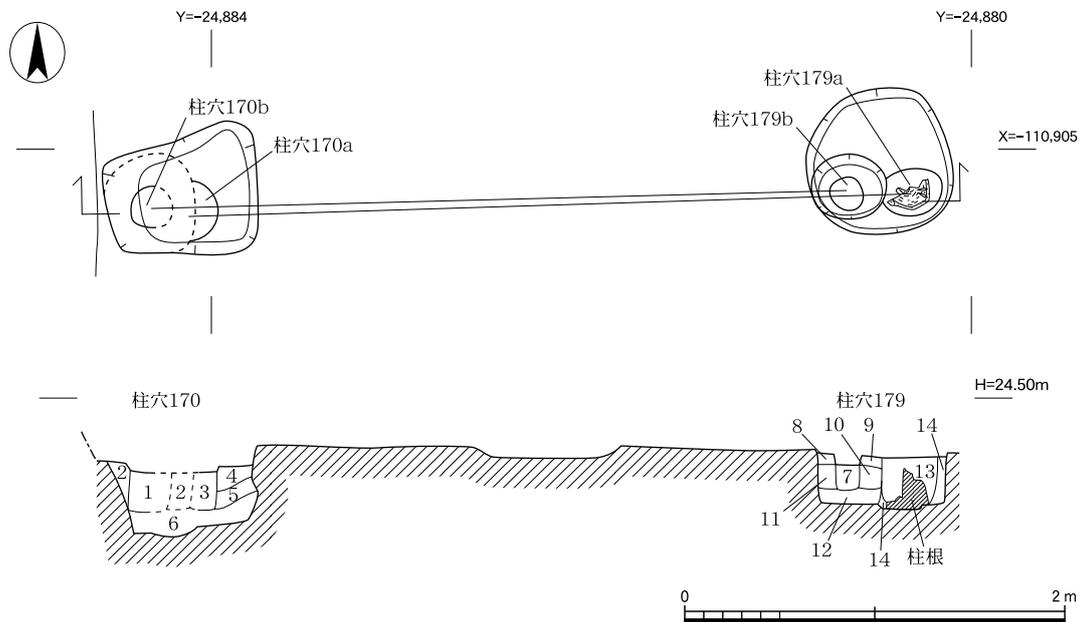
地鎮跡 (土坑 151) (図 13、図版 3- 2) 北側溝の北約 0.4 m で検出した。平面形はやや歪な円形を呈し、検出面での規模は、径 0.8 m、深さ 0.03 m ある。出土遺物には、土師器片のほか須恵器壺や杯蓋などがある。また、土器類とともにわずかに炭や焼土、木片が出土している。出土遺物の年代観から、平安時代初頭に建物 1・2 の造作時に敷地もしくは築地に対する地鎮を施した遺構と考えている。

高辻小路北側溝 (溝 152) (図 14、図版 3- 1) 調査区南端で検出した東西方向を示す溝である。検出位置から高辻小路の北側溝と考えているが、高辻小路北築地想定線から南へ 2.3 ~ 3.0 m に位置している。調査区内では北肩口を約 17.0 m にわたり検出した。東西方向にさらに延長する。検出面での現存規模は、幅は東端で約 0.5 m、深さ約 0.5 m ある。埋土中層から灰釉陶器平瓶が



- | | | | |
|----|---|----|--------------------------------|
| 1 | 10YR3/2 黒褐色砂泥、φ1~4cm礫含む | 11 | 2.5Y2/1 黒色粘質土、φ1~3cm礫含む |
| 2 | 10YR3/1 黒褐色砂礫 | 12 | 10YR3/1 黒褐色砂泥、やや粘質 |
| 3 | 10YR3/2 黒褐色粘質土、2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土ブロック混 | 13 | 7.5Y6/1 灰色粘質土 |
| 4 | 10YR3/1 黒褐色粘質土、10YR4/4 褐色粘質土ブロック混 | 14 | 10YR3/1 黒褐色粘質土 |
| 5 | 10YR4/6 褐色粘質土 | 15 | 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 |
| 6 | 10YR2/2 黒褐色粘質土、7.5Y6/1 灰色粘質土ブロック混 | 16 | 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 |
| 7 | 10YR2/1 黒色粘質土、7.5Y6/1 灰色粘質土ブロック混 | 17 | 10YR2/1 黒色粘質土、2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土混 |
| 8 | 10YR3/2 黒褐色砂泥、やや粘質、5Y5/2 灰オリーブ色砂泥混 | 18 | 10YR3/1 黒褐色粘質土 |
| 9 | 2.5Y3/2 黒褐色粘質土 | | |
| 10 | 2.5Y4/1 黄灰色砂泥、やや粘質、2.5Y4/4 オリーブ褐色粘質土ブロック混 | | |

図 11 柵実測図 (1 : 100)



- | | | | |
|---|---------------------------------|----|-----------------------------|
| 1 | 7.5YR5/1 褐灰色砂泥 (柱穴170b柱当たり) | 8 | 10YR3/3 暗褐色砂泥 (柱穴179b掘形) |
| 2 | 10YR5/3 にぶい黄褐色砂泥 (柱穴170b掘形) | 9 | 10YR6/3 にぶい黄褐色砂泥 (柱穴179b掘形) |
| 3 | 10YR2/3 黒褐色砂泥 (柱穴170a柱当たり) | 10 | 10YR5/3 にぶい黄褐色砂泥 (柱穴179b掘形) |
| 4 | 7.5YR2/2 黒褐色砂泥 (柱穴170a掘形) | 11 | 10YR5/2 灰黄褐色砂泥 (柱穴179b掘形) |
| 5 | 10YR2/1 黒色砂泥、粘質 (柱穴170a掘形) | 12 | 10YR5/1 褐灰色砂泥 (柱穴179b掘形) |
| 6 | 10YR6/1 褐灰色砂泥 (柱穴170a掘形) | 13 | 10YR3/1 黒褐色粘質土 (柱穴179a柱当たり) |
| 7 | 10YR2/2 黒褐色砂泥、やや粘質 (柱穴179b柱当たり) | 14 | 10YR6/2 灰黄褐色砂泥 (柱穴179a掘形) |

図 12 門跡実測図 (1 : 40)

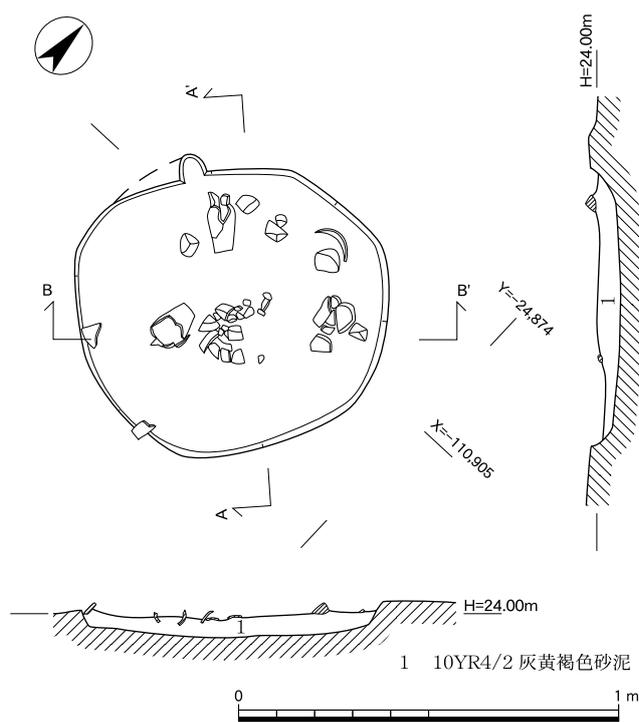


図13 地鎮跡（土坑151）実測図（1：20）

出土している。

溝101 調査区中央東寄りで検出した溝であり、わずかに蛇行するものの南北方向を示す。南北端は攪乱によって削平を受けており、南北約13.5m分を検出した。検出面での規模は、幅0.3m、深さ0.05mある。溝は、東3行・4行界からやや西寄りに位置する。

溝131 調査区中央部で検出した東西方向の溝である。検出面での規模は、幅0.2m、深さ0.05mある。重複状況から建物3よりも古い。検出位置は、北七門・八門界想定線と高辻小路北側溝北肩口との間に位置する。主軸方向は、座標東に対し南へ約3°振れる。

2) 平安時代以前の遺構

溝153（図15） 調査区南東隅で検出した、北東から南西方向を示す溝である。北東および南西方向へは調査区外へさらに延長する。調査区内では長さ約4.5m分を検出した。南は高辻小路北側溝により削平を受ける。断面形状はV字を呈する。検出面での規模は、幅1.0m前後、深さ0.8mある。遺物は出土せず、時期は不明である。

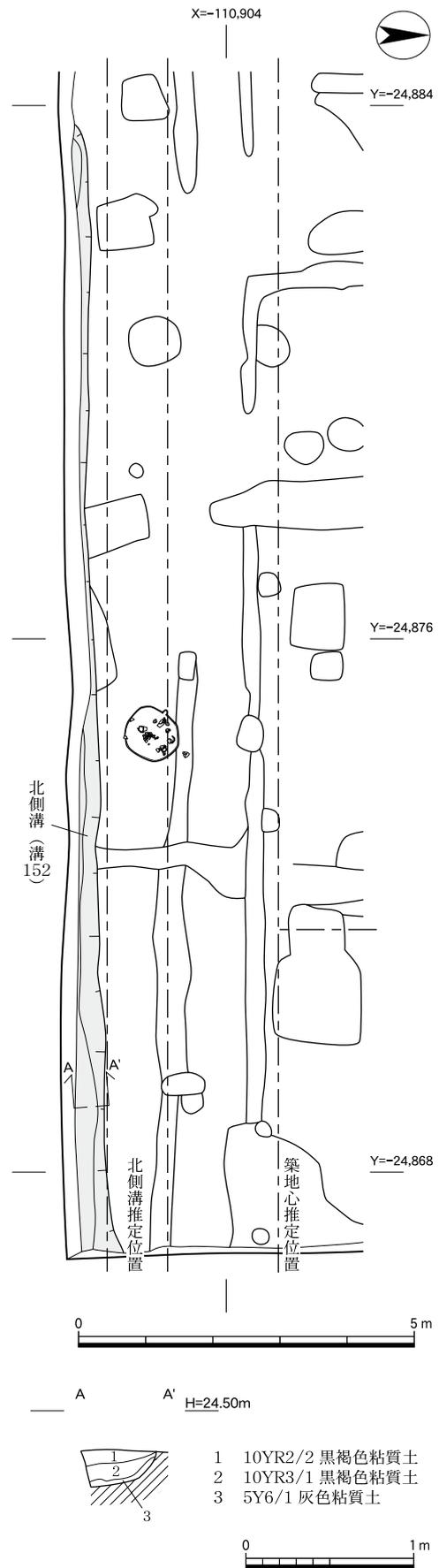


図14 高辻小路北側溝（溝152）実測図（平面1：100、断面1：40）

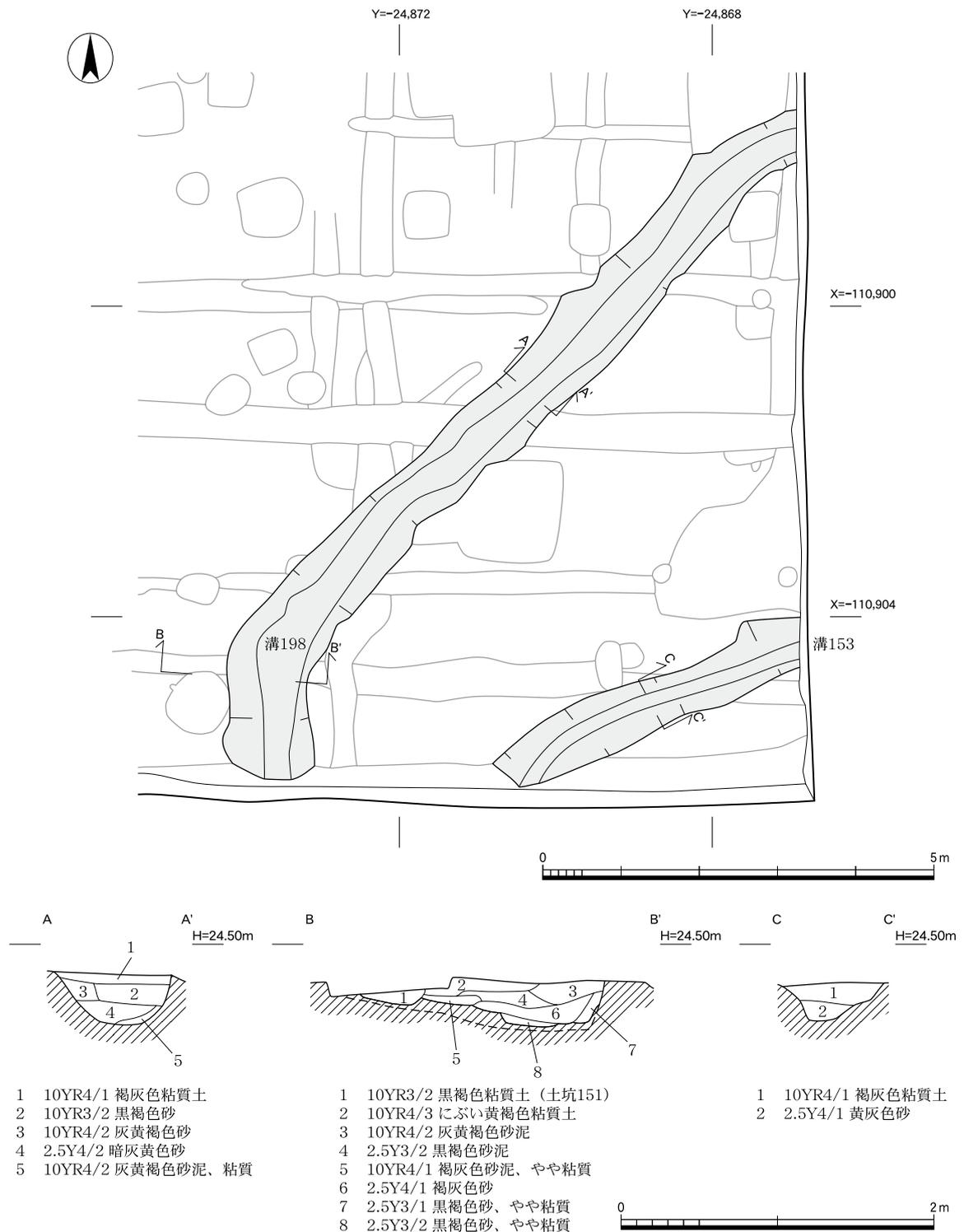


図15 溝153・198実測図(平面1:80、断面1:40)

溝198(図15) 溝153の北側で検出した溝で、溝153とほぼ同一方向に延長する溝であるが、調査区南端付近で南西方向から南へ方向を変え、調査区外へさらに延長する。また、調査区東端でも北東方向からやや東へ方向を変える。調査区内では長さ約11.0m分を検出した。建物1の柱穴により削平を受ける。断面形状はV字を呈す。幅0.8m前後、深さ0.8mある。遺物は出土せず、時期は不明である。

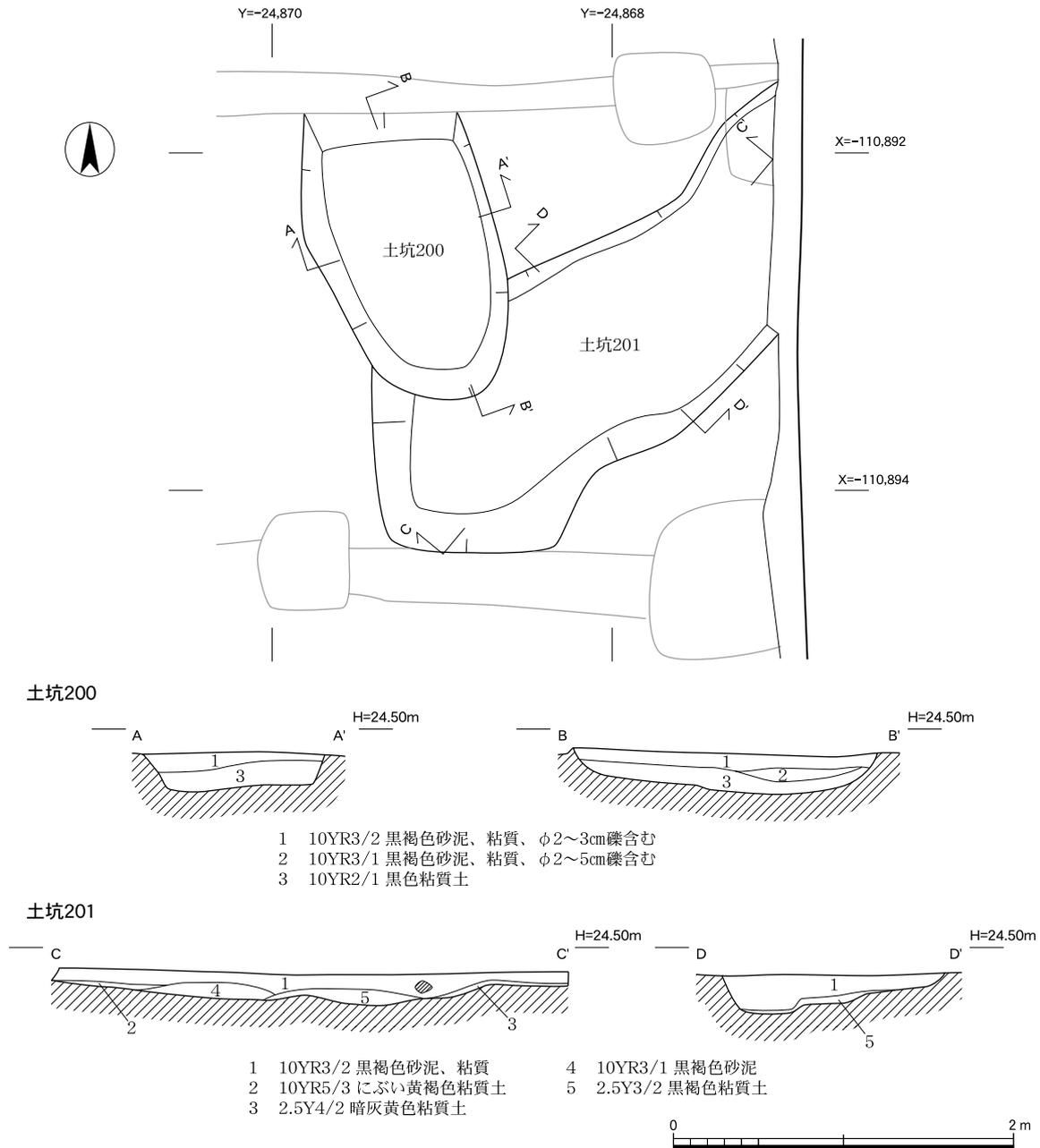


図 16 土坑 200・201 実測図 (1 : 40)

土坑 200 (図 16) 調査区の北東で検出した南北に長い土坑である。検出面での規模は、東西 1.0 m、南北 1.5 m で、深さ 0.3 m ある。肩口はなだらかで、底面も多少の起伏があり自然の窪みと思われる。遺物は出土せず、時期は不明である。

土坑 201 (図 16) 土坑 200 の東部で検出した北東から南西方向を示す土坑である。東肩口は調査区外へさらに広がる。検出面での規模は、長径約 3.0 m、短径 1.0 m 前後で、深さ 0.3 m ある。古墳時代の遺物小片が出土した。湿地状の窪地であろう。

3. 遺物

(1) 遺物の概要

遺物は、遺物整理箱で、土器・瓦類が10箱、木製品（建築部材）が1箱出土した。土器・瓦類のうち、大半は土器類である。いずれも平安時代前期に属する。遺物は小片が多く図化できたものはわずかである。土器類には土師器や須恵器、灰釉陶器などがある。瓦類には平瓦がある。

土器類のうち、土師器には、杯・皿類などがあるが、細片で図示できるものはない。須恵器には杯 A、壺 G、小型・中型壺、杯 B 蓋、甕などがある。灰釉陶器には平瓶、椀などがある。瓦類には平瓦があるが、小片で図示できるものはない。木製品（建築部材）には、柱穴から出土した柱根がある。

土器の型式年代は、当研究所『研究紀要』第3号「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」に準じる。

(2) 土器類（図 17、図版 4）

地鎮跡（土坑 151）出土土器（1・2）は須恵器壺 G である。1 は口縁端部を欠損する。体部は上方に立ち上がり、肩部はわずかに丸みを持つ。口縁部は開きつつ立ち上がる。頸部には口縁部を接合した痕跡が残る。内外面ともヨコナデ、底部は磨滅する。現存高さ 17.0 cm。2 はほぼ完形である。体部は上方に立ち上がり、肩部は丸みを持つ。口縁部は上方に立ち上がりながら開く。底部は成形痕は不明である。口径 7.0 cm、高さ 19.7 cm。（3）は須恵器杯 B 蓋である。天井部は扁平で、口縁部は屈曲する。内外面ともヨコナデを行い、天井部にはやや扁平なつまみを付ける。口径 14.2 cm、高さ 2.6 cm。

建物 1 柱穴 174 出土土器（4）は須恵器杯 A である。扁平な底部から体部は直線的に立ち上がる。内外面ともヨコナデ、底部は回転ヘラ切りで未調整である。口径 12.4 cm、高さ 3.4 cm。

表 3 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
平安時代以前	須恵器		須恵器 1 点		
平安時代	土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器、木製品		須恵器 6 点、灰釉陶器 2 点、木製品 3 点		
江戸時代	染付、施釉陶器				
合計		12箱	12点（2箱）	5箱	5箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より1箱多くなっている。

高辻小路北側溝（溝 152）出土土器（5）は灰釉陶器平瓶の口縁部で、体部との接合痕が残る。内外面ともヨコナデ、内外面に浅黄色に発色する灰釉を施す。口径は 8.1 cm。

以上の土器群はⅡ期古までに収まると考えられる。

溝 198 出土土器（9）は須恵器甕の口縁部の破片である。口縁部は外上方に立ち上がり、口縁端部はわずかに肥厚する。内外面ともヨコナデを行い、一部には自然釉が掛かる。口径 22.4 cm。

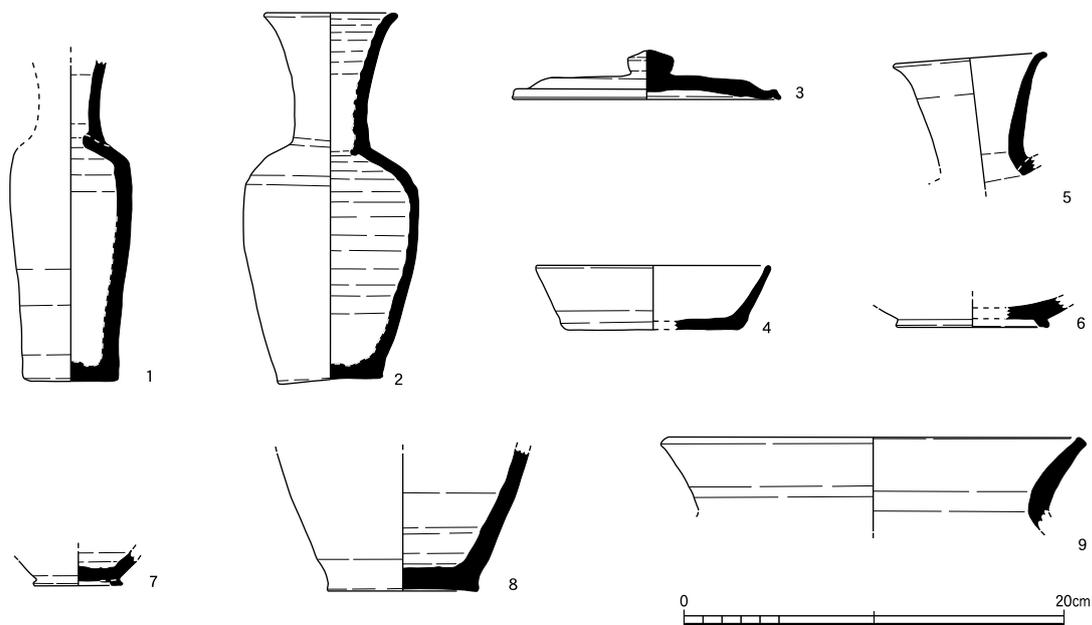


図 17 土器実測図（1：4）

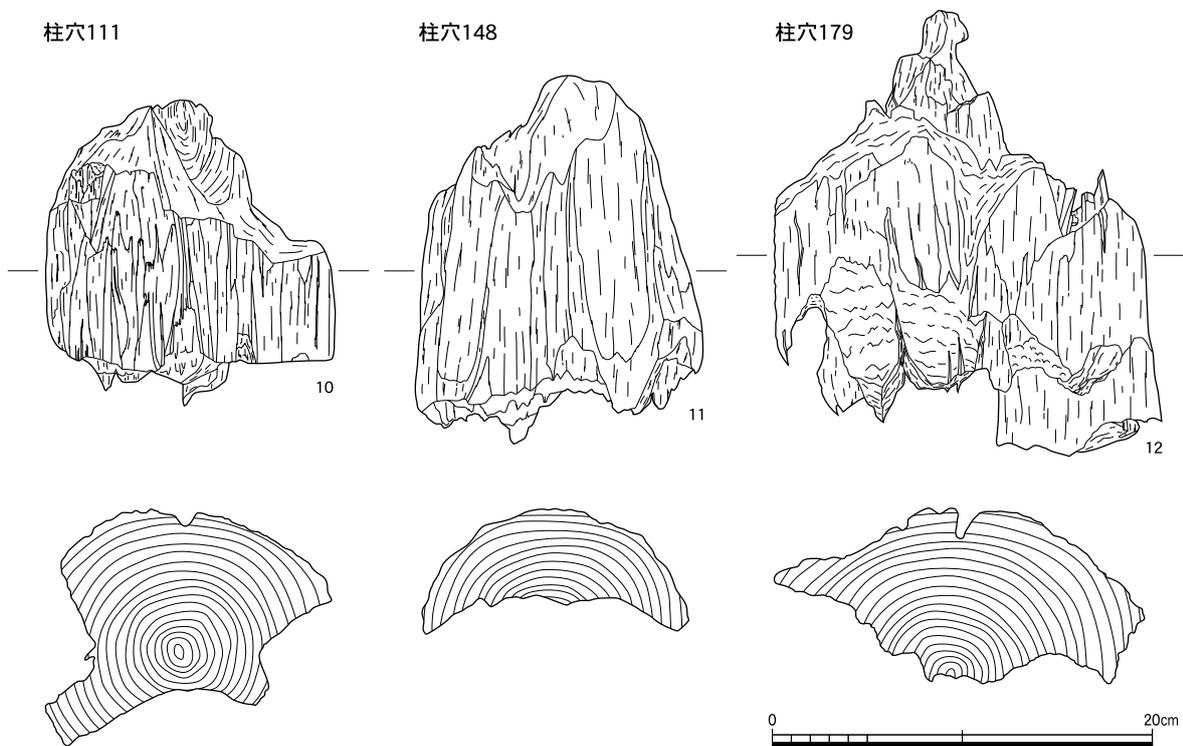


図 18 柱根実測図（1：4）

その他の遺構出土遺物（6）は近世溝から出土した灰釉陶器碗の底部片である。やや外開きの低い高台を貼り付ける。内面の灰釉は厚い。底部径 8.1 cm、残存高 1.6 cm。（7・8）は近現代の耕作土層から出土した須恵器の小片である。7 は須恵器小型壺の底部片で、底部は糸切り、高台を貼り付ける。内外面ともヨコナデを行う。底部径 4.6 cm、現存高 1.9 cm。8 は須恵器中型壺の底部片で、底部には糸切り痕が残る。内外面ともヨコナデを行う。底部口径 8.0 cm、残存高 7.5 cm。

（3）木製品（図 18、図版 4）

木製品（建築部材）には柱根（10～12）がある。いずれも腐食が進み、伐採痕や調整痕などの痕跡は不明である。材質はヒノキである。

10 は建物 2 の柱穴 111 から出土した柱根である。断面で 2 / 3 ほど遺存する。径約 15 cm、残存長約 16 cm。

11 は柵の柱穴 148 から出土した柱根である。断面は三日月状に遺存する。径約 14 cm、残存長約 18.5 cm。

12 は門跡の柱穴 179 から出土した柱根である。断面で 1 / 3 ほど遺存する。径約 19.5 cm、残存長約 23.7 cm。

4. ま と め

条坊路の一つである高辻小路の北側溝と考えられる東西溝を検出したことにより、条坊の復元に新たな資料を付け加えることができ、また、北側溝を含めて、建物、門跡、地鎮跡がまとまって検出できたことは、小路付近に面した宅地内状況の在り方の一つを示す良好な資料と言える。

建物3は柱穴の平面規模や柱間などが建物1・2に比べ小規模であることから、建物1・2より後出の建物と考えられる。柵は柱穴の規模や切り合い関係から建物1よりも新しく、建物3と同時期の付属施設と考えられる。以上のことから、調査地の宅地の変遷は2時期が考えられる。まず、平安時代初期に地鎮が行われ北側溝、門と同時期頃に建物1および建物2が建てられる。その後、10世紀頃までには柵を付属施設とする建物3が西方に建てられることになる。

検出した建物群の配置から、少なくとも六町の南西部1/4町を占地していることがわかる。また、建物1・2は西側柱筋を揃えており関連性が窺えることから、同時期の建物群の可能性はある。しかも、建物2は西側を除く三面庇の東面する南北建物を想定でき、正殿に対する脇殿と想定すれば建物2は中心施設の一部に予想できる。

平安京造営以前において、この付近は北東方向から南西方向に緩やかに傾斜する地形をなしており、その方向に向かって緩やかな自然流路や低湿地を形成していたことが推測できる。今回の調査では、溝153や溝198を検出した。これらの溝は平面や断面の形状から、周辺の水処理などを目的とした人為的な様相が見て取れ、平安京造営以前にこの付近に何らかの開発行為が行われたことが窺え、近辺に関連遺構が展開する可能性がある。

版 图

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょううきょうごじょうさんぼうろくちょうあと							
書名	平安京右京五条三坊六町跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2010-20							
編著者名	津々池惣一							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2011年6月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょううきょう 平安京右京 ごじょうさんぼうろくちょうあと 五条三坊六町跡	きょうとしうきょうく 京都市右京区 さいいんみなみいごろうちょう 西院南井御料町 6-1、6-2	26100	1	35度 00分 00秒	135度 43分 39秒	2011年3月 7日～2011 年4月1日	306m ²	工場建設 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京右京 五条三坊六町跡	都城跡	平安時代以前	土坑、溝	須恵器				
		平安時代	高辻小路北側溝、 掘立柱建物、門跡、 地鎮跡	土師器、須恵器、灰釉 陶器、柱根				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-20

平安京右京五条三坊六町跡

発行日 2011年6月30日

編集
発行 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265 番地の 1
〒 602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町 298 番地
〒 604-0093 TEL 075-256-0961